



発掘された拳母城(桜城)二の丸石垣 (P 6)

## 目次

- ・資料紹介 千匹大絵馬 旭地区小馬寺蔵／中馬の全盛を伝える ——— 2
- ・近代の産業とくらし発見館 とよた「発見」講座開催報告 ——— 3
- ・トピックス 合併した旧町村の指定文化財 4 ——— 4
- ・発掘調査速報 ——— 6
- ・文化財シリーズ55・資料館 NEWS ——— 8

# 千匹大絵馬

旭地区小馬寺蔵／中馬の全盛を伝える

絵馬は社寺に祈願や報謝のために奉納された板絵で、今日も各所で合格祈願など様々な絵馬をみることができます。形式的には吊懸式の小絵馬と扁額式の大絵馬に分けられます。起源は古く奈良時代にあり、難波宮跡から馬の図柄を描いた板の出土例が知られています。生馬を献上するのが本来であったが、生馬のかわりに馬形（土馬、木馬、板絵）を献上する風習にかわってきたところに源流があるといわれています。

ここで紹介する千匹大絵馬は市内旭地区の牛地町の駒山(840m)山頂部にある小馬寺に奉納されていた絵馬です。小馬寺は古くは天台宗の山岳寺院でしたが、延宝年間(1673～81)に臨済宗に改宗され、南朝伝説と馬の信仰でよく知られてきた寺院です。残念ながら現在は伽藍の一部を残すのみとなってしまいました。

絵馬は縦1.82m、横3.87mの扁額形の超大型絵馬です。額面は長さ1.8m余、幅0.2～0.4mのヒノキの縦板14枚を横に合わせて構成され、裏と外縁を角材で頑丈に組み合わせる構造になっています。欠損、木組の緩みはなく湿度の変化による絵具の落剥が少しみられますが全体として保存状態は良好な状態でした。

匹程度であろうといわれています。表面に嘉永4年(1851)の年号、棋庵 藤忠為の作者名・落款、裏面に時の住職名、懸額時の年号、大工、願主名が墨書されています。

|          |  |          |
|----------|--|----------|
| (裏面・右下)  |  | (表面・右上)  |
| 現住泰源代    |  | 奉懸       |
| 此日嘉永四年亥載 |  | 御廣前      |
| 晚春吉祥日    |  |          |
| 懸額之      |  | (表面・左下)  |
| 御所貝津村    |  | 嘉永四載亥春日  |
| 大工       |  | 棋庵 藤忠為 寫 |
| 澤田代吉     |  |          |
| 苗勝次郎     |  |          |
| 黒田村      |  |          |
| 塚田惣工門    |  |          |

( )は墨書の位置

一般に馬を描いた絵馬はよくみられますが、いずれも馬数は少なく、千匹図は稀で吊懸け式の小型なものが主体ですが、小馬寺の絵馬はきわめて大きな額装であること、馬数が圧倒的に多い、年号がある、精巧な描写、保存状態も良好である点が注目されます。民俗学者の岩井宏實先生のご教示によれば全国的にも類例は非常に少なく、数例であろうとのことでした。

千匹図は馬匹産業に関わった人々や馬を飼育する近郷の農民が馬の繁殖、病気平癒、家業繁栄、家内安全を願って奉納したもので、東濃地方の一部を含む当地方が幕末期に馬産地として隆盛を極めていたことを示しています。生産馬は当然、物資の輸送、すなわち中馬に供給されたとかがえられます。小馬寺は三河と信州を結ぶ善光寺街道が東の麓を通過している



千匹大絵馬

図柄は遠景に連峰、山岳を、手前に根上りの老松と満開の桜の大木が配され、大草原に群棲する馬を遠近で描写した壮大な構図を展開させています。個々の馬の描写は細密かつ鮮やかに大小、様態、白、黒、栗毛に描き分けられています。実際に数えられるのは650

こと、奉納に携わった人々が御所貝津村、黒田村（市内御所貝津・黒田町）の地元住人であることから、この地域が三信の中馬輸送をささえていたことを裏付けています。中馬輸送全盛期を伝える貴重な民俗資料のひとつといえるでしょう。

(松井孝宗)



# とよた「発見」講座 (第1回入門編) 開催報告

豊田市近代の産業とくらし発見館(以下、発見館)では、平成18年2月19日から平成18年3月5日までの毎週日曜日、計4回の日程で「とよた「発見」講座」を開催しました。この講座は、市域の近代の遺産を知ることにより、「近代」から知られざる地域の魅力を発見するための入門編として企画され、発見館が主催する最初の講座となりました。

第1回目(2/12)は、発見において近代の遺産から地域の特徴を知るための基本的な事柄について解説を行いました。なぜ地域を知るために「近代」に注目するのか、発見館が提唱する「とよたモダントラベル」などについての講義と、発見館の展示を解説しながら、近代の遺産を鑑賞するポイントやそこから地域の特徴を見つけるための視点などについて説明を行いました。



第1回目の様子(発見館展示解説)

第2回目(2/19)は、豊田市駅周辺に残る近代の遺産を徒歩でめぐりました。発見館から駅前通りの北街区を経て、市域最大の製糸工場であった「加茂蚕糸」の跡地である豊田産業文化センターで折り返し、駅前通りの北街区を経て発見館へ戻るコースを約2時間かけて歩きました。豊田産業文化センターでは加茂蚕糸の名残や「喜楽亭」の建物内部も見学し、往復の途中では路地や建築物など意外な場所を案内し、近代の遺産の探し方や見所を解説しました。

第3回目(2/26)はあいにくの雨模様となりましたが、貸切バスで足助地区を訪れ、「中馬のおひなさん」でにぎわう足助町の街並みを歩いてめぐりました。足助支所地域振興担当の鈴木氏から足助地区の歴史や文化

について説明を受けながら、足助八幡宮をはじめ、太子堂や旧愛知県<sup>さんぎょう</sup>蚕業取締所第四支所であった足助資料館、旧稲橋銀行足助支店であった中馬館など、近代の建築物を主体に見学しました。



第4回の様子(漆瀬橋の見学)

第4回目(3/5)は稲武地区を訪れ、貸切バスで移動しながら、伊世賀美<sup>いせがみ</sup>隧道や真弓橋<sup>まゆみ</sup>・漆瀬橋<sup>うるしぜ</sup>などの明治から昭和初期に造られたトンネルや橋といった土木遺産を見学しました。その他、稲武郷土資料館を見学し、移動中のバスの車内では、景色を眺めつつ稲武支所地域振興担当の正戸氏から稲武地区の歴史や文化について説明を受けました。

今回の講座には、第1回から第4回まで延べ約80名が参加してくださいました(引率スタッフを含む)。市外からの参加もあり、「近代」から地域を「発見」という新たな試みに、多くの人が参加してくださいましたことは大きな喜びでした。また、参加者からは「今回の講座によって普段は何気なく見過ごしている風景の中に、まだ多くの近代の遺産があることを知った」「近代という視点から見ると見慣れた場所も新鮮な光景になる」といった感想をいただくなど、講座の内容も好評でした。

発見館では今後も講座や体験教室などを催し、近代から地域の歴史や文化をご案内していきます。機会をみてぜひご参加ください。(天野博之)

問合せ先：豊田市近代の産業とくらし発見館  
電話(0565)33-0301

# 合併した旧町村の指定文化財 4—稲武地区

指定文化財の紹介の4回目は旧稲武町の文化財です。

## 玄武岩

愛知、長野、岐阜の三県が相境する三国山の頂上（海拔1,162m）より東方約500mのやや小高い嶺付近（海拔1,130～1,150m）にあります。顕著な亀甲形柱状節理と柱状節理を呈するソレーアイト質<sup>かんらん</sup>橄欖石玄武岩として岩石地質学上注目すべき岩種の一つです。



## 人形浄瑠璃の首と衣裳

稲武地区の小田木町に伝わる人形浄瑠璃の首（かしら）と衣裳で、恵那系（関西）と伊那系（関東）の二つの系統をひいたものであろうといわれています。明治9年（1876）以降上演されていませんが江戸時代に始まると思われ、人形田と称する集落共有田の作米で操り練習用の飯米を供していたというほど盛んでした。また寛保（1741～1744）年間に、信州上伊那の唐沢家が小田木の首を購入したことが同家の古文書で知られています。

## 瑞龍寺のシダレザクラ

樹齢は300年を超え、幹囲は県内のシダレザクラと比べ勝っており、樹勢も旺盛で、花付きも見事です。



## 大野瀬の子持カツラ

杉の植林地の中で、谷川沿いに叢生しているカツラです。主幹のまわりに大小約48本のひこばえが取り巻いています。最も大きなひこばえは目通り1.8m、樹高27.5m。ひこばえ群の外周は目通り17.5mに及びます。



## 稲武地区指定文化財一覧

| 区分 | 種 別     | 名 称            | 所蔵又は管理者        | 指定年月日      | 時 期   | 所在地           | 備 考                      |
|----|---------|----------------|----------------|------------|-------|---------------|--------------------------|
| 県  | 天然記念物   | 玄武岩            | 豊田市            | 1955.5.6   |       | 大野瀬町池ヶ平1-1    | 亀甲形柱状節理、面積2,970㎡         |
| 県  | 有形民俗文化財 | 人形浄瑠璃の首と衣裳     | 小田木区長          | 1967.8.28  | 江戸    | 黒田町南水別713番地   | 首45点、衣裳30点               |
| 県  | 天然記念物   | 瑞龍寺のシダレザクラ     | 瑞龍寺            | 1971.2.8   |       | 稲武町寺下3        | 樹高8m、胸高囲3.35m、根囲3.4m     |
| 県  | 天然記念物   | 大野瀬の子持カツラ      | 大野瀬財産区         | 1987.9.9   |       | 大野瀬町ヤナジ17-3   | 樹高27.5m、大小約48本の群生        |
| 市  | 天然記念物   | 押山のイヌツゲ        | 個人             | 1983.7.7   |       | 押山町的場402-1    | 3本に分岐、幹囲107cm、100cm、70cm |
| 市  | 天然記念物   | 小田木のエノキ        | 個人             | 1983.7.7   |       | 小田木町モチ洗バ12    | 分布の上限。胸高囲3.2m            |
| 市  | 天然記念物   | 小田木のカヤノキ       | 個人             | 1983.7.7   |       | 小田木町ヨコテ20     | 樹高15m、根囲3.8m             |
| 市  | 天然記念物   | 横川のエノキ         | 個人             | 1983.7.7   |       | 稲武町横川口18      | 樹高15m、胸高囲3.1m            |
| 市  | 天然記念物   | 東尾のヒイラギ        | 個人             | 1983.7.7   |       | 夏焼町東尾185      | 樹高8.6m、胸高囲2.0m           |
| 市  | 天然記念物   | 八幡神社のスギ・ヒノキ合体木 | 稲橋八幡神社         | 1983.7.7   |       | 稲武町宮ノヒラ1      | 胸高囲6.1m、御神木              |
| 市  | 天然記念物   | 野入神社のスギ        | 野入神明神社         | 1983.11.22 |       | 野入町宮の前後9      | 樹高47.5m、胸高囲5.7m、御神木      |
| 市  | 天然記念物   | 大野瀬神社のイチヨウ     | 大野瀬神社          | 1983.11.22 |       | 大野瀬町宮の腰20     | 胸高囲5.3m、雌木               |
| 市  | 天然記念物   | 大安寺のシダレザクラ     | 大安寺            | 1983.11.22 |       | 大野瀬町中貝戸13     | 樹高15m、胸高囲2.3m            |
| 市  | 有形民俗文化財 | 押山の大日如来        | 押山区長           | 1984.3.30  | 安土桃山  | 押山町中田471-21   | 座像、高さ80m、慶長5年            |
| 市  | 有形民俗文化財 | 河手若宮鰐口         | 個人             | 1984.3.30  | 戦国    | 黒田町南水別713番地   | 直径25.5cm、天文22年           |
| 市  | 有形民俗文化財 | 猿投灰釉長頸瓶        | 個人             | 1986.3.5   | 奈良～平安 | 桑原町上須形459-1   | 8世紀後半の作品、器高28cm          |
| 市  | 史跡      | 稲武大安寺遺跡        | 大安寺            | 1984.3.30  | 縄文前期  | 大野瀬町中貝戸10     | 縄文(前)住居址1基、面積1,120㎡      |
| 市  | 史跡      | 馬ノ平遺跡          | 個人6名           | 1984.3.30  | 縄文～奈良 | 稲武町馬野3-20ほか   | 縄文(早～晩)、弥生、奈良、面積2,335㎡   |
| 市  | 史跡      | 川手城址           | 個人2名           | 1984.3.30  | 戦国    | 川手町シロヤマ6-4ほか  | 戦国時代 面積3,890㎡            |
| 市  | 史跡      | 武節城址           | 八幡神社始め6名       | 1984.3.30  | 戦国    | 武節町シロ山195-1ほか | 戦国時代 面積6,846㎡            |
| 市  | 史跡      | 武節古城址          | 個人5名           | 1984.3.30  | 戦国    | 桑原町上鎌井183ほか   | 戦国時代 面積7,699㎡            |
| 市  | 名勝      | 大滝             | 愛知県知事・中部地方建設局長 | 1986.3.5   |       | 押山町・川手町地内     | 落差8m、落口の幅6～14m           |
| 市  | 考古資料    | クダリヤマ遺跡の鰐付短頸壺  | 豊田市教育委員会       | 1996.10.1  | 縄文中期  | 黒田町南水別713番地   | 縄文土器(中期末)、祭器             |
| 市  | 考古資料    | 清泰地遺跡出土灰釉陶器一式  | 豊田市教育委員会       | 1996.10.1  |       | 黒田町南水別713番地   | 中世の蔵骨器                   |

(中村 紅三子)





## ○ <sup>どうがいと</sup>堂外戸遺跡(市木町堂外戸)

平成18年1月に後半3,100m<sup>2</sup>の調査を終え、2月に補足調査を完了しました。

今年度5,600m<sup>2</sup>の最大の調査成果は、6世紀代の堂外戸ムラの一角に特別な場所があったらしいことがわかってきたことにあります。前年度調査で見つかった<sup>どくりつむなもちばしらつきたてもの</sup>「独立棟持柱付建物」は、豪族が“まつりごと”を行った可能性が高い建物です。20m四方ほどの空白地帯(広場か?)をおいて、西側に1辺9mの「大型竪穴建物」があります。6世紀代の竪穴建物としては、県内最大規模を誇ります。さらにその西側には2間×2間の総柱建物が12棟あり、おそらく「高床倉庫」が建ち並んでいたと思われます。「独立棟持柱付建物」「大型竪穴建物」「高床倉庫群」はいずれも、一般的な古墳時代のムラにはない、あるいは非常に少ない建物であり、これらが3つかたまって存在することは、このエリア

の特殊性を物語っています。想像をたくましくすれば、周辺を治めた豪族が堂外戸遺跡の大型竪穴建物に住み、東側の広場や独立棟持柱付建物で“まつりごと”を行っていた姿を思い描くことも可能です。

平成19年まで継続する調査の中で、堂外戸遺跡の姿を復元していきたいと考えています。(森 泰通)



平成17年度調査区平面図(1/1000)部分

## ○ <sup>ころも</sup>拳母(桜)城跡(元城町1丁目)

桜城とも称される拳母城は、豊田市の中心市街地にあたる市役所のすぐ東側にあります。拳母藩内藤家2万石の居城で、宝暦6年(1756)に築城が始まりましたが、度重なる洪水や財政難のため、二の丸のみが完成したといわれています。天明年間(1780年代)には、新たに高台に築いた拳母城(七州城)へ移転し、廃城となりました。現在は、二の丸<sup>ひらやぐら</sup>平櫓の石垣(市指定史跡)周辺が桜城址公園として整備されています。

今回、豊田信用金庫本店を新たに西側へ建設することに伴い、平成18年1月から3月までの予定で1,450m<sup>2</sup>の発掘調査を進めています。現在は、二の丸北西隅で西側へ突出する周辺の石垣と堀を調査中です。二の丸内部は全面的にかく乱を受けており、残念ながら建物の様子などはわかりません。石垣の上部はすでに破壊されていますが、面石の幅80cm、高さ50cm前後を測る花崗岩の切石積み(高さ約1.1m)残っています。廃城時に上部の石垣を堀へ引き倒したため、一部で裏込めの栗石が前面に飛び出していました。竹を組んで土壁を塗った土塀が倒れ込んだ状態で見つかった場所もあります。また、自然堤防のうえにある拳母

城は地盤が悪いため、石垣の下には胴木と呼ばれる土台の木が据えられていました。

幅15m前後の堀の中には、杭と板材による護岸が認められ、中央部分がさらに一段深く掘り下げられています。堀の底部は石垣の基礎から1m以上下がっており、現在の地表面からは4m以上の深さとなります。中からは当時の瓦・陶磁器類・<sup>やきしおつぼ</sup>焼塩壺などが出土しており、当時の暮らしぶりをうかがうことができます。

(森 泰通)



二の丸石垣と堀の調査

### ○ 神明遺跡(鴛鴦町神明)

平成17年11月調査。個人住宅の建替えに伴う発掘で、34㎡を調査しました。狭い範囲でしたが、中世の浅い遺構(土壇・ピット)がみつかりました。規則的な配置をしたものか、あるいは建物などの柱穴にあたるものかは調査範囲が狭いため不明です。今回の調査区画は、これまでに調査・報告されている区域からはやや離れた北東に位置しています。これまでの調査の成果にみられるような神明遺跡の主体をしめる古墳時代～古代の遺構はなく、遺物も少量でした。



### ○ 今町遺跡(今町8丁目)

平成17年12月調査。送電用鉄塔の建設に伴う発掘で、約25㎡の区画を4箇所調査しました。この区画は愛知県埋蔵文化財センターによる調査区の東側にあたります。このうち2箇所は水路の造成や水田耕作により遺構はなくなっており、遺物もほとんどみつかりませんでした。他の2箇所の区画では砂層の堆積が何層もみられ、洪水による堆積が中世以降に何度もあったことがわかりました。また、今回の調査区は今町遺跡の端部にあたり、中世集落の流路(排水路など)として利用されていた区画であることがわかりました。



### ○ 寺部城関連遺跡(寺部町2丁目)

平成18年2月調査。個人住宅の建替えに伴う発掘で、98㎡の区画を調査しました。寺部町の東部の大半は陣屋が置かれた江戸時代の武家屋敷や町屋などが分布する区域にあたり、今回の調査区は武家屋敷があったところです。調査範囲が狭いため、屋敷地の様子を伺うほどの遺構は確認できませんでしたが、調査区西端には幅1.2m、深さ0.5～0.6mの区画溝が調査区を南北に貫いてみつかりました。この溝が半ば埋まった頃に堆積した土の中からは、瓦や陶磁器が多量に棄てられている状況で出土しました。この溝のほかには礎石を伴う建物の柱穴や浅い瓦や陶磁器を棄てた穴などがありました。出土遺物は主に江戸時代の陶磁器や瓦など

ですが、古墳時代の土師器の短頸壺や須恵器なども出土し、周辺に古代の遺構が分布することもうかがわれます。



溝に多量に棄てられた瓦や陶磁器

(杉浦 裕幸)

## 文化財シリーズ



### 太刀 銘行安 国指定文化財・工芸

猿投神社に奉納されている刀剣類の中で、太刀・銘行安は特に優れた神宝です。この太刀は平安時代末期、薩摩国の波平派の刀工「行安」によってつくられました。波平派は永延年間(987～988)ころ、大和国の刀匠「正国」が薩摩に移住して祖となり、幕末まで続いた門流です。その嫡流は代々「行安」を名乗り、多くの名刀と優れた刀工を輩出しました。

一般に刀剣は刃を下向きにして腰から下げるものを太刀、刃を上に向けて腰の帯に差し込むものを刀と呼んでいます。行安銘の太刀は、反りの最も深い部分が柄に近い位置にある腰反りの高い刀身

で、前代の直刀の姿をよく残しています。身幅は細めで、刃の側面中位より少し棟に近い位置に張り出した稜線を残す鍋造り。鍛え方は、砂鉄から生産された玉鋼を一定方向へ繰り返し折り返す柂目とは異なり、縦横に鍛えた板目で、焼入れによって生じる刃文は、幅の狭い直線を描く細直刃。茎(柄)は中途から急に細くなる雉子股形。目釘穴上部に大きく「行安」と作者の銘が刻まれています。

で、前代の直刀の姿をよく残しています。身幅は細めで、刃の側面中位より少し棟に近い位置に張り出した稜線を残す鍋造り。鍛え方は、砂鉄から生産された玉鋼を一定方向へ繰り返し折り返す柂目とは異なり、縦横に鍛えた板目で、焼入れによって生じる刃文は、幅の狭い直線を描く細直刃。茎(柄)は中途から急に細くなる雉子股形。目釘穴上部に大きく「行安」と作者の銘が刻まれています。



## 資料館NEWS

### ひな人形展

平成18年1月28日～3月12日 (期間入館者3,270人)

春の訪れを告げるひな祭りにちなんで、ひな人形展を開催しました。江戸時代から昭和にかけて、市内各家庭で飾られてきた大切な人形たちが資料館に並べられました。見学に訪れた人たちは、懐かしくも新鮮な気持ちで華やかな人形を見つめていました。

2月25日には、おひなさまに供える「おこしもの」づくり講座を開催。こどもたちにとっては初めての体験となったことでしょう。



おこしものづくり

### 堂外戸遺跡現地説明会

平成18年3月4日 (参加者482人)

市木町の堂外戸遺跡において、平成17年度の調査成果を広く知っていただくため、現地説明会を開催しました。当日は天気にも恵まれ、古墳時代の「特別な」ムラに多くの見学者を迎えることができました。

調査は19年度まで続きますので、新たな発見にご期待ください。

### 利用案内

開館時間 9:00～17:00

休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館)、年末年始

入場料 無料(特別展開催中は有料)

交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分

名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分

愛知環状鉄道「新豊田駅」より北へ 徒歩15分

駐車場 約20台

### ■豊田市郷土資料館だより No.55■

平成18年3月31日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

☎ (0565) 32-6561 FAX (0565) 34-0095

E-mail : rekihaku@city.toyota.aichi.jp

URL : <http://www.toyota-rekihaku.com>

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。